

# 総合内科

## 診療スタッフ

主任部長 守矢英和

部長 赤澤賢一郎、西口翔

医長 永廣尚敬、川井実

医員 西増理絵子、天野紗緒理、納響

## 診療概要

当院の総合内科は2005年4月、内科統括部長の小林修三副院長（当時）の下、北川泉と腎臓内科の守矢英和が部長に就任し、新体制でスタートした。総合内科は各専門内科で対応できない疾患すべてに対応し、また複数科にまたがる管理が必要な場合（慢性心不全に胃潰瘍が合併した場合など）にも総合内科が対応する。

代表的な対象疾患は、感染症（肺炎、尿路感染症、敗血症）や電解質異常（脱水、低カリウム血症、低ナトリウム血症）、薬物中毒（睡眠剤、抗精神薬・抗うつ薬の過剰摂取）、代謝疾患（糖尿病性ケトアシドーシス）、膠原病（原因不明の不明熱や関節痛、皮疹）や血管炎などの全身性疾患、臓器特異的な症状を呈さない疾患などを扱う。

総合内科は、それ自体が専門性を持った診療科だが、各専門内科から独立した診療科ではなく、専門科との連携を図りながら統合的に全身管理を行うことを目標としている。イメージとしては、1人の患者を複数の専門科医師が別々に対応するのではなく、1人の医師の中に複数の専門科の知識と考え方を備えることで、1人の医師がその患者を総合的に全身管理するものである。一方で、総合内科医は専門内科でないと対応できない範囲を理解しており、適切なタイミングで専門内科と連携する能力も必要となる。

また総合内科は、若手医師への教育・指導を担当する診療科でもあり、ジュニアレジデント（初期研修医）には医療の基本となる内科診療を、シニアレジデント（内科専攻医）には総合内科医としての知識・考え方・技術を教育している。内科全般を網羅できるようカンファレンスや勉強会を開催し、「屋根瓦方式」教

育で全人的な医療ができる医師を育成している。湘南鎌倉総合病院の総合内科は、小規模・中規模病院の内科と連携し、「専門内科が充実した病院での総合内科」だけでなく「専門内科が少ない病院の総合内科」も研修できる教育システムを備えている。

実際の診療としては、ふらつきやめまい、不明熱などの臓器非特異的症候を呈する患者の診断や、検診異常の二次精査などを外来で扱う。入院診療としては、感染症や、多臓器にまたがる病態を4~5チームのチーム体制で診療する、院内で一番規模の大きい診療科として救急救命センターと連携して患者診療に当たっている。

## 診療実績

平均在院日数 16.1日

総入院患者数 31,416名

総外来患者数 27,025名

### 【学術論文】

- 1.Nishiguchi S, Sugaya N, Saigusa Y, Inamori M. Effect of interprofessional collaboration among nursing home professionals on end-of-life care in nursing homes. *Drug Discov Ther.* 2021 May 11;15(2):93-100. doi: 10.5582/ddt.2021.01030. Epub 2021 Apr 29.
- 2.Ono R, Kitagawa I. Double heart-shaped silhouette. *Gastroenterology.* 2021 May 4;S0016-5085(21)00745-9. doi: 10.1053/j.gastro.2021.04.072. Online ahead of print..
- 3.Ono R, Kitagawa I. A woman with fever and back pain. *J Am Coll Emerg Physicians Open.* 2021 May 24;2(3):e12458.doi: 10.1002/emp2.12458. eCollection 2021 Jun.
- 4.Okumura H, Nishiguchi S (September 22, 2021). *Pasteurella multocida* Infection Presented With Frequent Diarrhea in the Cirrhotic Patient. *Cureus* 13(9): e18183. doi:10.7759/cureus.18183.

# 総合内科

5.西口 翔：尿の異常と排尿トラブルってどういうことですか？. 一日を十日楽しむためのげんたい養生訓北海道家庭医療学センター げんたい養生訓編集委員会編集 Vol. 12/No. 3. 2021/09.

6.西口 翔：特集 外来で役立つAha! クエスチョン-この症状で、次は何を聞く？腹部 嘔気・嘔吐. *Medicina* 第58巻 第12号 別刷. 2021年11月10日 発行. 医学書院.

7.Daisuke Sato, Sho Nishiguchi ,Eri Tanaka. Successful Management of Subacute Thyroiditis Following SARS-CoV-2 Infection. 2021 The Japanese Society of Internal Medicine : Intern Med 60: 3573-3576, 2021.

8.Kawachi J, Koyama H, Aida Y, Kamio T, Yamagami H, Nishiguchi S : Spontaneous pneumothorax with coronavirus disease 2019 in non-ventilated patients: A single-center retrospective case series. *Ann Med Surg (Lond)*.2021Dec;72:103134.doi:

10.1016/j.amsu.2021.103134.Epub 2021 Dec

3.PMID: 34876986.

9.Hibino M, Watanabe S, Tobe S, Maeda K, Horiuchi S, Nishiguchi S, Iwase A, Uryu K, Kobayashi S, Kondo T : Antibody responses to SARS-CoV-2 nucleocapsid and spike proteins in hospitalized patients with COVID-19: A multicenter, retrospective, cross-sectional study in Japan. *Respir Investig*. 2022 Mar;60(2):256-263. doi: 10.1016/j.resinv.2021.11.006. Epub 2021 Dec 3.PMID: 34924308.

## 【学会発表】

荒牧宏江, 中原誠司, 花村太輔, 西口翔, 赤澤賢一郎, 石岡邦啓, 田崎潤一, 小泉一也, 守矢 英和：全身浮腫をきたした巨大肝嚢胞の一例. 内科学会ことはじめ 2021, 2021/4/10.

黒岩祐哉, 田中源八, 川井実, 山本大介, 西口翔, 赤澤賢一郎, 賀古真, 守矢英和：偽性腸閉塞を契機に1000 $\mu$ g/dlを超える高アンモニア血症を惹起した門脈血行異常症の一例. 内科学会ことはじめ 2021,

2021/4/10.

佐藤 大介, 田中 江里, 岡田 怜, 西口 翔, 前田 希世子:10年後に再々発を来した特発性後天性血友病Aの1例. 第669回内科学会関東地方会, 東京, 2021/6. 尾上 修治, 永広 尚敬, 守矢 英和, 濱 大介, 今井 尚美, 羽田野 博葵:肝酵素上昇を契機に発見された心臓悪性腫瘍の1例. 第670回内科学会関東地方会, 東京, 2021/07. 2021.9

佐藤 大介、西口 翔、田中 江里：SARS-CoV-2感染後に続発した亜急性甲状腺炎の一例. 第23回日本病院総合診療医学会学術総会、web開催、2021.9

Daisuke Sato, Sho Nishiguchi ,Joel Branch, Eri Tanaka. Acromegaly-a diagnosis hiding in plain sight.

Diagnostic Error in Medicine 14th International Conference (SIDM2021),2021/11,virtual.

天野 紗緒理：IgG4 関連繊維性縦隔炎にて食道狭窄をきたした一例. 第24回 日本病院総合診療医学会学術総会, 2023/2/26,27.

## その他の活動

1.守矢英和（演者）、慢性腎臓病における中性脂肪管理の重要性 Webカンファレンス（興和株式会社）、WEB配信, 2021年4月21日.

2.守矢英和（演者）、西口翔（座長）、腎性貧血治療のポイント～最新の話題を踏まえて～、総合診療 Webセミナー（WEB配信 Teams ライブ）、2021年6月1日.

3.守矢英和（座長）、総合内科における心不全治療、第47回SK腎セミナー（会場：講堂 ZOOM 配信のハイブリッド）、2021年7月14日.

4.守矢英和（開会の辞）、CRDG Seminar Cardiovascular, Renal, Diabetes and General internal Medicine、ZOOMによる開催、2021/7/15.

5.守矢英和（総合司会）、永広尚敬（演者）、肝酵素上昇を呈する心臓悪性腫瘍の診断的検討、第9回湘南地区総合内科セミナー（講堂+Teams 配信のハイブリッド）、2021年8月31日.

# 総合内科

---

## 展望/抱負

当科の特徴として、入院患者の9割以上が救急外来を受診し入院加療が必要となった患者を担当しているが、患者が救急外来を受診してから入院し、時には集中治療を受けつつ、一般病棟に移り、退院や転院、時には訪問診療となる一連の医療を途切れなく提供すべく、救命救急センターや集中治療部と一体化した医療を提供し、患者さんが安心して治療を受けられる医療体制を提供していきたい。